Clover クロバー

57-950

クロバー手織り機

# 咲きおり

40 cm

# 使い方説明書

（使い方説明DVD付）


・各部の名称と説明 …… Page~ 1

・材料について …… Page~ 2

・材料を準備します …… Page~ 3

・たて糸の張り方 …… Page~ 4～12

・基本の織り方 …… Page~ 13～16

・仕上げ方 …… Page~ 17

・咲きおりのヒント …… Page~ 18

・咲きおり関連商品のご案内 …… Page~ 19～21

・使い方説明DVD …… Page~ 22

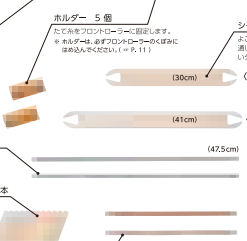

（使い方説明DVDでは、「たて糸の張り方」・「基本の織り方」・「仕上げ方」を映像で説明しています。併せて、ご覧ください。）

監修：箕輪直子


クロバー株式会社

# 各部の名称と説明

※ この使い方説明書（使い方説明DVD付）と下記内容が標準セットされています。




★別売品については、P. 19～21 をご覧ください。

# 材料について

## たて糸の素材について

- 丈夫で伸縮の少ない綿糸や毛糸のストレートヤーンがおすすめです。引っ張るとすぐ切れるような弱い糸は避けてください。(織り作業中、たて糸は常に引っ張られた状態になり、ソウコウを動かす度に擦れるので、弱い糸は切れやすくなります。)
- 毛足の長いモヘア、撚りの甘いスラブ、ループヤーンなどはソウコウ内で引っ掛かりやすく、毛糸同士が絡み合うこともあるので使用しないでください。

**POINT** たて糸の太さは ソウコウに合わせて選びます

※ 毛糸の太さは極太や並太などと呼び分けられますが、メーカーにより異なります。

- セットされている30羽ソウコウ(10cm内にたて糸を30本通れる)には、並太や太程度の太さの糸が適しています。
- 使用したい糸の太さによっては、別売の20羽・40羽・50羽ソウコウが適している場合があります。

★毛糸の写真は実物大

*かっこ内の数値は、毛糸のラベルに書かれている「長さ÷重さ」で計算した目安です。編み上げ、他の素材の場合は数値が変わるので、写真のみの太さを目安にしてください。

## よこ糸の素材について

- 毛糸・リボンなど、ひも状のものなら何でも使用できます。布を裂いて使用することもできます。(布の裂き方 ⇒ P. 18 )

**織りあがりの例**(実物大)

| | 20羽 ソウコウ | 30羽 ソウコウ | 40羽 ソウコウ | 50羽 ソウコウ |
|---|---|---|---|---|
| [使用糸]<br>それぞれのソウコウに適した太さの毛糸<br>※たて糸とよこ糸は、同じ太さを使用 | 極太毛糸 | 並太毛糸 | 合太毛糸 | 中細毛糸 |
| [使用糸]<br>よこ糸:裂き布<br>(約8mm幅) | 合太綿糸 | 合太綿糸 | 中細綿糸 | 中細綿糸 |
| その他<br>使用する糸によって<br>いろいろな<br>織り地を楽しめます。<br>たてたんとこたん糸<br>等ある種類にすると<br>風合いが変わります! | 極太毛糸 | 並太毛糸×合太毛糸 | 中細毛糸 | 中細綿糸 |
| ※使用糸の種類は、たてたんとこたん糸等で記載していますが、編み糸量が確保出来てたんとこたん同じ太さの糸を使用してください。 | 合太綿糸×極太毛糸 | 中細リネン糸 | 中細毛糸×中細モヘア糸 | |

初めての方は…
たて糸に
「並太綿糸~合太綿糸」
よこ糸に
「並太毛糸~極太毛糸」
の組み合わせが
おすすめです!

※ 完本の織り始は、織り機からはずした状態で撮影しています。

## ▶ 材料を準備します

### “織り長さ”と“織り幅”（＝織り機上の織り地の寸法）を決めます

- 織り地は、織り機からはずすと長さ・幅ともに約10％縮みます。この縮み分を考慮し、織り機上の寸法である“織り長さ”と“織り幅”は、作品のできあがり寸法（＝織り機からはずした状態の寸法）の約1.1倍に設定します。

**織り長さ ＝ できあがり寸法の長さ × 1.1**（縮み分）

**織り幅 ＝ できあがり寸法の 幅 × 1.1**（縮み分）

※ 縮み具合は、糸の種類によって異なります。

- 「咲きおり」40cmを使っての、最大の織り長さは約350cm（この場合、開は片側25cmまで）、織り幅は40cmです。（織り地の厚さによっては、巻き取れる長さが短くなる場合があります。）

### ● たて糸1列の長さを決めます

**たて糸1列の長さ ＝ 織り長さ ＋ 50cm**（ロス分）

- ロス分とは、織り機に巻きつけたりして縦れない箇所（たて糸の両方の端から25cmぐらいまでの部分）です。仕上げの際、開に使用できます。
- 25cm以上の房を作りたい場合は、足りない長さ分を追加します。

※「咲きおり」40cmで張れるたて糸は、最長約400cmです。

HINT 同じ幅の織り地は、長いたて糸を張って連続してつくることができます。（☞ P.5 ワープスティックの口で方式 参照）

### ● たて糸を張る時に、この“たて糸1列の長さ”が必要になります。

**HINT 必要な糸量（長さ）の計算方法**（糸の種類によって、縮み具合が異なります。少し余分にご用意ください。）

**たて糸**

**たて糸の必要量** ＝ たて糸1列の長さ × 織り幅（cm）× 1cmあたりのたて糸の数★1（30目ソウコウ織機の場合は3本）
たて糸の本数

★1：1cmあたりのたて糸の数は、使用するソウコウで決まります。30目ソウコウの場合は、10cmあたりのたて糸の数が30本なので3本になります。同じように、20目の場合は2本、40目の場合は4本、50目の場合は5本となります。

**よこ糸**

**よこ糸の必要量** ＝ 織り幅 × 1.2★2 × 総段数★3

★2：よこ糸はたて糸の開を上下に通るので、織り幅より糸分に長さが必要になります。

★3：総段数がわからない場合は、よこ糸の密度（段/cm）×織り長さ（cm）で計算します。
よこ糸の密度は、1cmあたりに何段織るかです。

※ 糸の必要量は1種類の糸で織る場合です。複数の種類の糸で織る場合は、各糸の割合で分けてください。

- この使い方説明書では、［織り幅］20cm × ［織り長さ］30cm のミニマット（できあがり寸法：約18×27cm／房部分を除く）を制作しながら説明していきます。（☞ 表紙 ― P.4 上級の写真 参照）

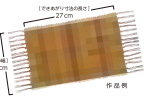
### ● ミニマットを織る場合

織り幅 20cm × 織り長さ 30cm（できあがり寸法：約18×27cm／房部分を除く）

- **たて糸の必要量** ＝（30cm ＋ 50cm）× 20cm × 3本 ＝ 4800cm ≒ 約48m
- **よこ糸の必要量** ＝ 20cm × 1.2 ×（3段 × 30cm）＝ 2160cm ≒ 約22m

**＋余分**
糸巻きを目安にしましょう

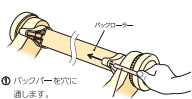
# たて糸の張り方




- ここからは、織り幅 20cm × 織り長さ 30cm のミニマットできあがりサイズ：約18×27cm ／両部分を除くを制作しながら説明します。
（必要な糸量 ☞ P. 3 ● ミニマットを編む糸量 参照）
- はさみ・定規、たて糸と一緒に巻き取る紙（☞ P. 9 A 参照）を用意しましょう。

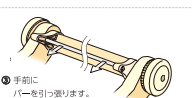
## 1

- 織り機にバックバー（長さ43cm）を取り付けます。

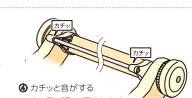



① バックバーを穴に通します。

② バーが反対側の溝に収まるように入れます。



③ 手前にバーを引っ張ります。




④ カチッと音がするまで引っ張り、固定します。

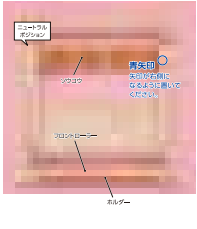
## 2

- ソウコウを固定している面ファスナーをはずします。
- ソウコウは青い矢印が右側になるように、ニュートラルポジションに置きます。（☞ 下記 ソウコウを置く位置 参照）
- ホルダーがフロントローラーに5個セットされていることを確認してください。

### ソウコウを置く位置

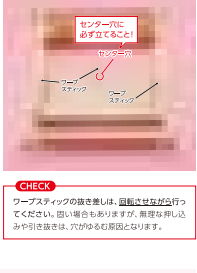
・ニュートラルポジション
たて糸を張る・織り始を巻き取るなど、ソウコウを動かさない時に置く位置

・スウィングポジション
よこ糸を通すなど、ソウコウを傾けて使う時に置く位置



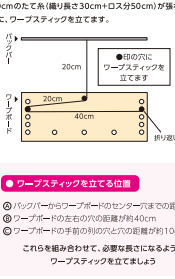
## 3

- たて糸1列の長さ（＝P. 3 参照）に合わせてワープボードの穴にワープスティックを立てます。ワープスティックを立てる位置の組み合わせによって、様々な長さのたて糸が張れます。
- ワープボードのセンター穴には、必ずワープスティックを立ててください。（糸をかける時には、センター穴のワープスティックからかけ始めます。）




### ●ミニマット（織り幅20cm×織り長さ30cm）を織る場合

80cmのたて糸（織り長さ30cm＋ロス分50cm）が張れるように、ワープスティックを立てます。



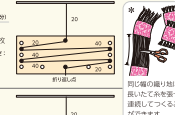

**CHECK**

ワープスティックの抜き差しは、**回転させながら**行ってください。回し場合もありますが、無理な押し込みや引き抜きは、穴がゆるむ原因となります。

### ● ワープスティックを立てる位置

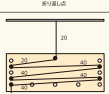
Ⓐ バックバーからワープボードのセンター穴までの距離が約20cm
Ⓑ ワープボードの左右の穴の距離が約40cm
Ⓒ ワープボードの手前の列の穴と穴の距離が約10cm

**これらを組み合わせて、必要な長さになるように**
**ワープスティックを立てましょう**

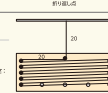



### HINT　ワープスティックの立て方例　（●印にワープスティックを立てます）

**例1**
**テーブルセンター**
- 織り長さ：約50cm
- たて糸1列の長さ：約100cm




**例2**
**コースター**（5枚分）
- 織り長さ：約10cm×5枚
- たて糸1列の長さ：約180cm*

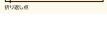






同じ幅の織り始は、長いたて糸を張って連続してつくることができます。
* 織り始と織り始の間を、間合いとして20cmあけて織ります。

**例3**
**マフラー**
- 織り長さ：約150cm
- たて糸1列の長さ：約200cm




**例4**
**敷長の長さ**
- 織り長さ：約350cm
- たて糸1列の長さ：約400cm

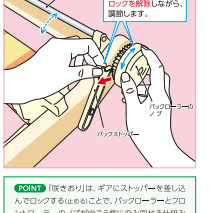
## 4

- バッパーの高さを調節します。まず、右奥側にあるバックストッパーを持ち上げて、ロックを解除します。バックローラーのノブを回してバッパーの高さを合わせたい（☞ TIP バッパーの高さ 参照）、ストッパーを戻して再びロックします。

### バッパーの高さ

◆ 適した高さ：フレームと同じくらいの高さ

- バッパーが高いと…たて糸がソウコウからはずれやすくなります。
- バッパーが低いと…たて糸をかける溝に指でさわりにくくなります。




**POINT** 「区ぎさり」は、ギアにストッパーを差し込んでロックする（止める）ことで、バックローラーとフロントローラーのノブが向こう側にのみ回せる仕組みになっています。
ノブを手前側に回す時は、ストッパーをはずしてロックを解除してから回します。回し終わったら、必ずロックをしましょう。

## 5

❶ たて糸の糸端をほどけないようにしっかりとバッパーに結びます。

❷ 作成の中心をソウコウの中央に合わせ、縫り幅の端にあたる溝に糸を入れます。

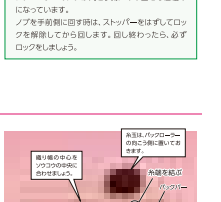
**CHECK**

**たて糸は、カチッと音がするまで入れます。**

突起は、手前側と奥側に交互にあります。

溝の中にある2つの突起の間に、たて糸を通します。

※ 2つ目の突起より下に糸が入ってしまうと、根元に糸がはさまってソウコウが動かせなくなります。特に40番・50番のソウコウを縫い糸を使用する場合は注意してください。

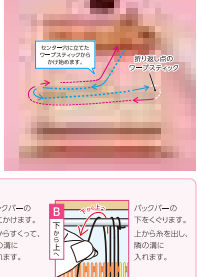



**memo** ソウコウは5cmごとに色が変わっているので、糸をかける位置の目安になります。

## 6

① センター穴のワープスティック → その他のワープスティック → 折り返し点のワープスティック の順にたて糸をかけていきます。折り返し点までかけたら、同じルートを通ってソウコウまで戻ります。

**POINT** 強いテンションで糸をかけると、計算したたて糸の長さより糸が短くなる恐れがあります。折り返し点のワープスティックにかかっている糸が上下に動かせるくらいの強さで張ります。

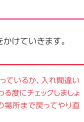



② ソウコウまで戻ってきたら、隣の溝に糸を入れ、バックバーの上から下へ糸をかけます。（☞ 下記 バックバーへの糸のかけ方 **A** 参照）

### バックバーへ糸のかけ方

バックバーに糸をかける時は、**A** と **B** を交互に繰り返します。

- 間違えると糸が絡まるので、注意してください。
- 糸玉は、バックローラーの向こう側から動かさず、糸だけを引き出してかけていきます。




バックバーの上にかけます。下からすくって、隣の溝に入れます。

バックバーの下をくぐります。上から糸を出し、隣の溝に入れます。

## 7

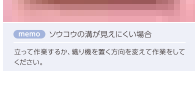
- **A** の①-②を繰り返し、たて糸をかけていきます。

**CHECK**

全ての溝にたて糸が1本ずつ入っているか、入れ間違いがないかを、ソウコウの色が変わる度にチェックしましょう。間違いがあった場合は、その場所まで戻ってやり直してください。

**HINT**

- たて糸の途中に結び目があった場合（☞ P. 18）
- たて糸が途中でなくなった場合（☞ P. 18）
- たて糸の色を変える場合（☞ P. 18）
- 2色のたて糸を交互にかける場合（☞ P. 18）
- たて糸を2本取・3本取にする場合（☞ P. 18）




memo ソウコウの溝が見えにくい場合

立って作業するか、織り機を置く方向を変えて作業をしてください。

## 8

❶ 織り幅分のたて糸をかけ終わったら、糸端を20cm程度残して切り、バックバーが折り返し点のワープスティックに結びます。（たて糸の本数が偶数か奇数かにより、結ぶ場所が変わります。）

**CHECK**

ソウコウを後ろに傾けて、2本入っている溝・とばしている溝がないか、もう一度確認しましょう。

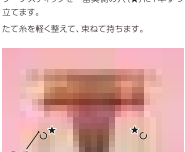
❷ たて糸が正しくかかっているか確認できたら、折り返し点のワープスティックから約10cmの箇所を別糸で結びます。（たて糸が長い場合は、途中で何ヶ所か結んでください。）

❸ 全てのワープスティックを抜き、たて糸の輪をはさみで切ります。

## 9

❶ ワープスティックを一番奥側の穴（★）に1本ずつ立てます。

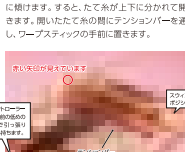
❷ たて糸を軽く整えて、束ねて持ちます。




## 10

❶ ソウコウをスウィングポジションに置きます。
（☞ P. 4 ソウコウを置く位置 参照）

❷ 片手でたて糸を引っ張りながら、ソウコウを後ろに傾けます。すると、たて糸が上下に分かれて開きます。開いたたて糸の間にテンションバーを通し、ワープスティックの手前に置きます。




**CHECK**

たて糸は交互に上下に分かれます。上の糸だけを全て拾えているか確認してください。（糸の種類によって、分かりにくい場合があるのでしっかり確認してください。）

## 11

- ソウコウを**手前**に傾けます。すると、たて糸が**⑩**とは上下がえれ替わって開きます。開いたたて糸の間にもう1本のテンションバーを通し、ワープスティックの手前に1本目のテンションバーと揃えて置きます。

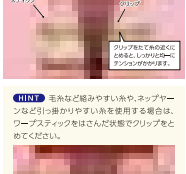
**memo** なぜテンションバーを使うの？

たて糸をテンションバーではさんで巻き取ると、たて糸に一定のテンションをかけることができます。これによりゆがんだたて糸が巻き取れます。

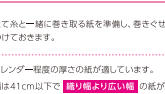
## 12

**⑪** ソウコウをニュートラルポジションに戻します。

**⑫** テンションバーをワープスティックの手前で2本揃えてクリップでとめます。




**HINT** 毛糸など絡みやすい糸や、ネップヤーンなど引っ掛かりやすい糸を使用する場合は、ワープスティックをはさんだ状態でクリップをとめてください。



## 13

- 面ファスナーでソウコウと本体を固定します。

## 14

- たて糸と一緒に巻き取る紙を準備し、巻きぐせをつけておきます。

- カレンダー程度の厚さの紙が適しています。
- 幅は41cm以下で**織り幅より広い幅**の紙が、**織り長さ分**（織り長さの倍の長さ）＋**1枚**必要になります。

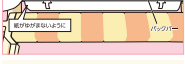
たて糸を送る時にバックローラーで巻き取るり

織る前にフロントローラーに巻く分

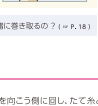
**オススメ** 別売の
専用大判ロール紙「咲きさりペーパー（40cm）」もございます。（☞ P. 19）

## 15

- 14 で準備した紙を下から差し込み、バックローラーとバックバーの間に通します。



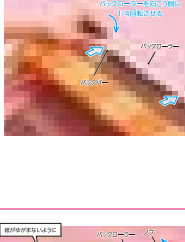

**HINT** 紙の端をバックローラーの角に合わせて、マスキングテープなどでとめておくと、次の巻き取る工程が楽になります。




**memo** なぜ紙と一緒に巻き取るの？（☞ P. 18）

## 16

- バックバーをバックローラー側に押し、差し込んだ紙を押さえます。バックバーで紙を押さえたまま、バックローラーを向こう側に1/4回転させます。




## 17

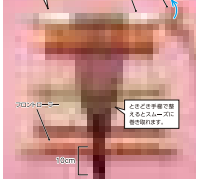
- バックローラーのノブを向こう側に回し、たて糸と紙を巻き取ります。糸端がフロントローラーから約10cmになるまで巻き取りましょう。

**注意**

**紙の端からたて糸が落ちないように注意してください。**
紙から落ちると、その部分の糸だけ張り具合がきつくなってしまいます。
（織り幅に対して紙の幅に余分が少ない場合は、糸が落ちやすいので、特に注意してください。）

- 紙がなくなった時は、また別の紙を差し込んで続き定していきます。

- 長いたて糸の場合は、ときどきたて糸を引っ張って、ゆるみを取りましょう。



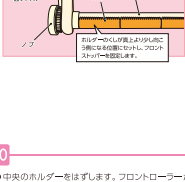

**POINT** 巻き取る途中で、たて糸が引っ掛かっているように感じたり、バックローラーの回転が重く感じた時は、糸が絡まっている場合があります。一度巻き取りを中止し、テンションバーに隙間をあけ、絡まっている糸をほどいてから再度巻き取ってください。それでも、糸が絡まって巻き取りづらい場合は 12 に戻り、テンションバーの間にワープスティックをはさむ方法に変えて、やり直してください。

## 18

❶ ソウコウから面ファスナーをはずします。

❷ 左手前側のノブを回して、ホルダーのくしが真上より少し向こう側になる位置にセットします。

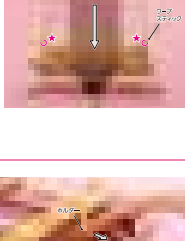
❸ フロントローラーが動かないように、面ファスナーを長穴に通しフロントストッパーを固定します。




## 19

❶ たて糸を束ねていた別糸をほどき、たて糸を手で持ったまま、クリップとテンションバー、ワープスティックを取りはずします。

❷ ソウコウを手前に移動させ、奥から3番目の穴（★）にワープスティックを立ててソウコウを固定します。




## 20

❶ 中央のホルダーをはずします。フロントローラーが回らないように押さえながらはずしましょう。

❷ たて糸を軽く引っ張りながら、ソウコウの近くからホルダーのくしで幅を出しながらとかし、フロントローラーのくぼみにパチンとはめ込みます。
（※ホルダーのくし目に複数のネップ入っても縫い糸がパリには影響しません。）

**CHECK**

ホルダーは、必ず
フロントローラーのくぼみに
はめ込んでください。

❸ 続けて、他のホルダーでも同様にたて糸をとめます。ホルダーとホルダーの間に隙間ができないよう注意してとめましょう。

**HINT**

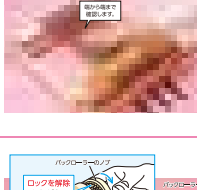
細いネやシルクなどすべりのよい糸をたて糸に使用する場合は、ホルダーに輪ゴムを巻いてお使いください。

## 21

- 全てのたて糸をとめたら、張りが均一になっているか端から端まで触って確認します。均一でない場合は、その部分のホルダーをはずしてとめ直します。

**POINT** ここでは一に張ることが、きれいな織りあがりにつながります。

**HINT** ホルダーをはずす時は、たて糸を持ち上げるようにすると、はずしやすいです。




## 22

❶ フロントストッパーを固定している面ファスナーをはずします。

❷ たて糸が一気にゆるまないようにバックローラーのノブを持ちながら、バックストッパーのロックを一時的に解除します。バックローラーのノブを手前に回してたて糸を少しゆるめたら、再びロックします。

❸ 14 で準備した紙を、ホルダーの上に置きます。ホルダーとたて糸の間に紙を差し込みながら、左手でフロントローラーのノブを向こう側に半回転させます。

**注 意**
この作業をしないと、20 でたて糸の張りを調節している時に、ホルダーがはずれてしまうことがあります。

**CHECK**
織り地を巻き取る時は、フロントローラーのノブを向こう側に回します。手前側に回して巻き取ると、たて糸がソウコからはずれやすく、打ち込みづらくなります。

## 23

❶ ワープスティックを全て抜き、ソウコウをニュートラルポジションに戻します。

❷ たて糸の張りをバックローラーで調節して、たて糸のセット完了です。

**POINT**
- **張りがきつい場合**
  織り機からはずすと、編んで小さくなります。よこ糸が詰まり、硬い織り地になります。
- **張りがゆるい場合**
  よこ糸が打ち込みにくく、糸が波打ったようになり織り地が乱れます。

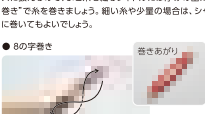
# 基本の織り方

## よこ糸をシャトルに巻きましょう

シャトルは、織り幅によって（大）／（小）の使いやすい方を選びます。

シャトルをたて糸の間に通す時は、シャトルに厚みがない方がスムーズに扱えるので、よこ糸を細るシャトルには厚みの出にくい"8の字巻き"で糸を巻きましょう。細い糸や少量の場合は、シャトルの中心に巻いてもよいでしょう。

● 8の字巻き




側面から見た時、8の字を描くようにして糸を巻きます。片側にある程度の厚さ（1～2cmくらい）まで巻いたら、反対側にも同じように巻きます。（巻きすぎると、シャトルをたて糸の間に通す時に引っ掛かり、たて糸がゆるむ原因になります）

memo 巻き始め

① 糸端で輪を作って、輪の中から糸玉側の糸を引き、結びます。
② できた輪をシャトルに引っ掛けます。

ほどく時は、こちら側を引っ張ります

● シャトルの中心に巻く場合

## まずは捨て織りをします

織り始めと織り終わりは、別糸（=捨て糸）で数段織ってほつれ止めにします。これを捨て織りといいます。
※この捨て織りは、織り始めにおいては「たて糸の幅や間隔を整える」という役目もあります。

- 余ったシャトルに、別糸（捨て糸）を少量（数段分）巻いておきます。

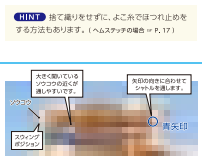
HINT 捨て織りをせずに、よこ糸でほつれ止めをする方法もあります。（ヘムステッチの場合 ☞ P.17）

### 1 捨て織りの1段目を織ります。

① ソコウクをスウィングポジションに置きます。

② ソコウクを手前に傾けます。すると、たて糸が上下に開きます。この時、青い矢印が見えます。

③ 開いたたて糸の間に、捨て糸を巻いたシャトルをソコウクの矢印の向きに合わせて右から左へ通します。糸側は、約10cm出しておきます。




POINT 糸が防止のため、捨て糸は約30°の角度をつけて通します。

よこ糸は、たて糸の間を上下に通るので、ゆとりを持たせて織らないと織り幅が縮んでしまいます。

## 2

❶ ソウコウを水平な状態に戻します。

❷ レールの上を手前にすべらせ、斜めにならないように注意しながら、打ち込みます。

## 3 捨て織りの2段目を織ります。

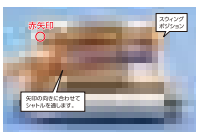
❶ ソウコウをスウィングポジションに戻します。

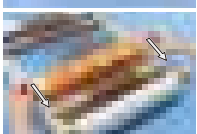
❷ ソウコウを後ろに傾けます。すると、たて糸が 1 とは上下が入れ替わって開きます。この時、赤い矢印が見えます。

❸ 開いたたて糸の間に、シャトルを左から右へ通します。

**POINT** この時も 1 と同様に、約30°の角度にします。

❹ 2 と同様に、ソウコウを手前にすべらせ打ち込みます。

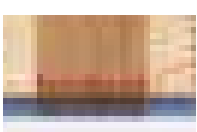


## 4

• たて糸の間隔が均等になるまで、1 ～ 3 を繰り返して、数段織ります。糸端は約10cm残して切ります。

**POINT** ここでは、4段(偶数段)織っています。奇数段にする場合は、次ページの 5・6 で、ソウコウを傾ける方向とシャトルを通す方向を説明と反対にしてください。



## よこ糸を織っていきます

### 5 よこ糸で1段目と2段目を織ります。

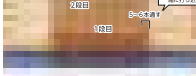
**①** ソウコウをスウィングポジションで手前に傾け、よこ糸を巻いたシャトルを右から通して打ち込み、1段目を織ります。糸端は約10cm出しておきます。

**②** 続いて、ソウコウをスウィングポジションで後ろに傾け、1段目の糸端をたて糸の端から5～6本通して上に出します。（☞ 右記 織り始めの糸端 参照）

**③** シャトルを左から通して②と一緒に打ち込み、2段目を織ります。

**POINT** よこ糸を折り返す時は、織り端の"ゆ"の部分とたて糸を指でつまんで整えると、織り端の崩みや織り端のたるみを防ぐことができ、きれいに織りあがります。たて糸を引っ張りすぎるとゆるむので注意しましょう。

**HINT** 打ち込み具合について（☞ P. 18）




**織り始めの糸端**

### 6 3段目からも同様に織っていきます。

**①** ソウコウをスウィングポジションで手前に傾け、シャトルを右から通して1段織ります。

**②** ソウコウをスウィングポジションで後ろに傾け、シャトルを左から通して1段織ります。

**POINT** たて糸にシャトルが当たると、ゆるんでしまいます。なるべく当たらないよう注意しましょう。

**③** ①・②を繰り返し、必要な長さになるまで織っていきます。

**HINT** たて糸が途中で切れた場合（☞ P. 18）

**オススメ**
織った長さや段数の確認には、別売の段数リング「Q」が便利です。（☞ P. 21）

## 7 シャトルが通しにくくなったら…（または、よこ糸が約30°の角度で通せなくなったら）

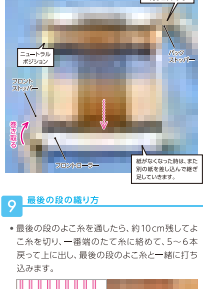
⑪ ソウコウをニュートラルポジションに戻します。

⑫ バックストッパーを持ち上げてロックを解除します。右手は軽くノブに添えておきます。

⑬ 左手でフロントローラーのノブを向こう側に回し、織り地を巻き取っていきます。

⑭ 再び織り始めるときには、バックストッパーをロックし、バックローラーのノブは裏側を回してたて糸の張り具合を調節してください。

**POINT** 巻き取りすぎた場合は、フロントストッパーのロックを解除し、フロントローラーを手前側に回して巻き戻し、再びロックした後、バックローラーでゆるんだ分を巻き取ります。

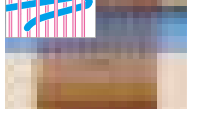



## 8 シャトルの糸がなくなったら…

- 途中でシャトルのよこ糸がなくなったら、新しい糸をシャトルに巻き、糸端を数cm重ねて通し、一緒に打ち込みます。

## 9 最後の段の織り方

- 最後の段のよこ糸を通したら、約10cm残してよこ糸を切り、一番端のたて糸に結めて、5～6本戻って上に出し、最後の段のよこ糸と一緒に打ち込みます。



## 10

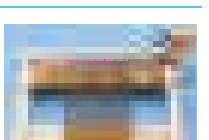
⑪ 数段捨て織りをします。

⑫ バックバーの近くでたて糸を切り、ソウコウからたて糸を抜きます。

⑬ フロントストッパーのロックを解除し、織り地を引き出します。

⑭ ホルダーをはずし、織り地を織り機から取りはずします。

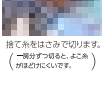
**POINT** 織り機を片付ける際は、破損防止のためバックバーをはずして保管してください。



# 仕上げ方

## 捨て糸を始末し、房を作ります

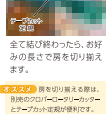
織り地の上にホなどの重しを置くと、作業しやすくなります。




捨て糸をはさみで切ります。
（一回分ずつ切ると、よこ糸がほどけにくいです。）

捨て糸を抜きます。
■ よこ糸がほつれないように注意しましょう。

たて糸を結びます。

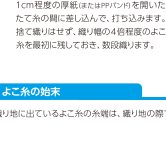



全て結び終わったら、お好みの長さで房を切り揃えます。

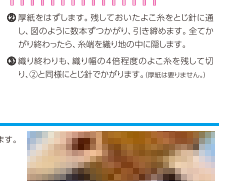
**オススメ** 房を切り揃える際は、刃先のクロバーロータリーカッターとテーブルカット定規が便利です。

## ヘムステッチの場合

織り機に張ったままの状態で作業します。結ぶよりもフラットに仕上がります。



⑪ 織る前に、ソワコウを後ろに傾けて、幅が1cm程度の厚紙（または PP バンド）を開いたたて糸の間に差し込んで、打ち込みます。捨て織りはせず、織り幅の4倍程度のよこ糸を最初に残しておき、数段織ります。

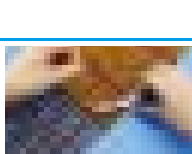


⑫ 厚紙をはずします。残しておいたよこ糸をとじ針に通し、図のように数本ずつかがり、引き締めます。全てかがり終わったら、糸端を織り地の中に隠します。

⑬ 織り終わりも、織り幅の4倍程度のよこ糸を残して切り、②と同様にとじ針でかがります。（厚紙は要りません。）

## よこ糸の始末

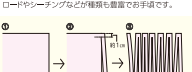
織り地に出ているよこ糸の糸端は、織り地の際で切ります。



# 咲きおりのヒント

P. 2 **HINT 布の裂き方**

平織の布は裂くことができます。裂けない布は、はさみかロータリーカッターで切りましょう。購入される場合は、プロードやシーチングなどが種類も豊富でお手頃です。




① 布端から0.5～1.5cmのところに、2～3cmの切り込みを入れます。
② 手で一気に裂き、布幅から約1cm手前で止めます。
③ ①-②を繰り返して、ひも状になるようにします。

P. 7 **HINT たて糸の途中に結び目があった場合**

結び目の部分を切り取り、バックバーか折り返し点のワープスティックに結びます。縒りの糸を再びバックバーに結んで、たて糸をかけていきましょう。

**HINT たて糸が途中でなくなった場合**

バックバーか折り返し点のワープスティックに結びます。新しい糸をバックバーに結んで、たて糸をかけていきましょう。

**HINT たて糸の色を変える場合**

かけている糸を休ませ（または一度切って、バックバーかワープスティックに結んで）、新しい糸をバックバーに結び、同様にたて糸をかけていきます。（新しくかた糸がしばらく続く場合は、一度切って結ぶ方がよいでしょう。）

**HINT 2色のたて糸を交互にかける場合**

2色の糸綛をバックバーに結び、2色同時にかけていきます。（色を変えない場合でも、本数が多い時は、2本ずつかけていくと早く張ることができます。）

P. 7 **HINT たて糸を2本取・3本取にする場合**

1つの溝に複数本のたて糸をかける場合、同じ種類の糸を使用した方がよいでしょう。伸縮性の異なるたて糸を使用した場合、片方のたて糸がゆるんでくる恐れがあります。

P. 10 **memo なぜ紙と一緒に巻き取るの？**

たて糸を均一に巻き取るためです。たて糸が互いに食い込んだり、崩れたりすることを防ぎます。

P. 15 **HINT 打ち込み具合について**

糸の太さや作品の用途によりますが、強く打ち込むと硬い織り地になるので、たて糸とよこ糸のバランスを見ながらやさしく打ち込みましょう。

たて糸とよこ糸の間にできる隙間が正方形になるように打ち込むと、きれいに織れます。織り作業中は、たて糸が引っ張られた状態なので、たて糸をゆるめた状態で確認しましょう。

マットなど丈夫さが必要な作品を進る時、つづれ織りなどよこ糸を詰める織り方の時は、強く打ち込みます。

**HINT たて糸が途中で切れた場合**

❶ たて糸がない状態でしばらく織り進みます。向こう側の切れたたて糸が織り地にとめられるようになったら、待針などでとめて織ります。
❷ 織り終わったら、別糸をとじ針で織り目通りに縫い込みます。糸端は5cm程度重ね、余った糸は切ります。

## ▶ 咲きおり専用レンチの使い方

「咲きおり」のソウコウは、プラスチックの薄いカード（羽）が並んだ状態になっています。
保管場所の変化や繰り返し使用することによって、羽を固定しているナットにゆるみが出た場合は、咲きおり専用レンチを使ってナットを締め直してください。

①

ソウコウの穂の六角ナットに、レンチの六角穴を合わせて、しっかりと差し込みます。

②

レンチを右回りにまわして、ナットを締めます。反対側のナットも同じように締めてください。

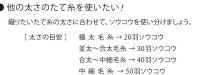
※ ナットを必要以上に締めすぎると、ソウコウに歪みが出たり、部品破損の原因となるので注意してください。
※ ナットにゆるみが出た場合の締め直し以外には、使用しないでください。レンチを左回りにまわすとナットがゆるみ、ソウコウを分解してしまう原因となり、使用上支障が生じたり、部品破損を起こす恐れがあるので注意してください。

## ▶ 咲きおり関連商品のご案内

### ● 他の太さのたて糸を使いたい！

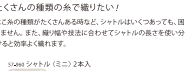
織りたいたて糸の太さに合わせて、ソウコウを使い分けましょう。

［太さの目安］ 極 太 毛 糸 → 20羽ソウコウ
並太～合太毛糸 → 30羽ソウコウ
合太～中細毛糸 → 40羽ソウコウ
中 細 毛 糸 → 50羽ソウコウ




### ● たくさんの種類の糸で織りたい！

よく糸の種類がたくさんある時など、シャトルはいくつあっても、困りモノです。また、織り場や技法に合わせてシャトルの長さを使い分けると効率よく織れます。




### ●「咲きおり」40cm に適した巻き取り用の大判紙



3枚入
サイズ：41×61cm

58-125
咲きおりペーパー（40cm）
たて糸、織り地の巻き取りに使う大判ロール紙「咲きおり」40cm にフィットした幅で、使利な1cm方眼です。

### ● なくしてしまった！

なくしてしまったり、ゆるみが出て使いにくくなったら、買い替えましょう。

### ● 収納や持ち運びに！

58-127
咲きおりバッグ（40cm）
「咲きおり」40cmの本体と備品を収納できるバッグです。

サイズ：63×63cm（持ち手は除く）

57-90.2
ホルダー（糸掛め）
3個入

## ● 糸始末に

先が曲がっているので、糸がずいやすいです。

51-491
とじ針
（先曲げタイプ）

51-252
ニッティングスレダー
穴が大きいので、ファンシーヤーンも簡単にとじ糸に通せます。

先が尖ってスマートな刃。細かい部分も安心して切れます。

36-666
カットワークはさみ115

## ● ステップアップした技法に

模様織り中途から織りをする時に
### ビックアップスティック

部分的にて糸を拾って模様を編るなど、色々な織り方を楽しめるスティックです。立たせてて糸を拾いたり、よこ糸の打ち込みもできます。

58-131/132/133 ビックアップスティック

幅：3cm（全サイズ）

58-131（25cm）

58-132（40cm）

58-133（69cm）

〈25cm〉20cm以下の織り幅の作品に。
〈49cm〉40cm以下の織り幅の作品に。
〈69cm〉60cm以下の織り幅の作品に。

つづれ織りなどに
### つづれ櫛

長さ：9cm

58-124 つづれ櫛
よこ糸を強く打ち込んだり、つづれ織り（絵織り）で部分的に織り込んだりする時に適した、手織り用の櫛。静電気が起きにくく、糸の通りもスムーズです。

## ● 初心者でもつくれる作品本

71-312
咲きおりレッスンブック

ベーシックな平織り、ターンテックック、Tシャツの裂き編りなど、難易度の低い作品から上級者向けの作品までを掲載しています。

A5判・36ページ

## ● 別サイズもあります

もう少し大きな作品をつくりたい時に。
（最大織り幅：60cm、たて糸の長さ：最長約4.9m）

51-493 手織り機「咲きおり」60cm（40羽セット）

セット内容（標準セット）
① 本体 / ② 40羽ソウコウ（6 0 cm）1本 /
③ シャトル（大）・（特大）各1本 / ④ ホルダー 6個 /
⑤ ホルダー（3組）2個 / ⑥ ワープスティック（長）12本 /
⑦ テンションバー 3本 / ⑧ バックバー 1本 /
⑨ クリップ 1個 / ⑩ 面アフスナー 2本 /
⑪ 専用レンチ 1個 / ⑫ 使い方説明書・使い方説明DVD

織りたいたて糸の太さに合わせて、ソウコウを使い分けましょう。

58-221 30羽ソウコウ〈60cm〉
58-222 40羽ソウコウ〈60cm〉
58-123 50羽ソウコウ〈60cm〉

58-226
咲きおりペーパー
（60cm）

便利な
1cm方眼。

2枚入
サイズ：61×81cm

58-136
咲きおりバッグ
（60cm）

サイズ：80×61cm（持ち手は除く）

## ● 房の切り揃えに

房を切り揃えるのは、なかなか難しいですが、溝のついたテープカット定規とローラーカッターを使うと、しっかり房さえなから、房を一気に切り揃えることができます。

57-924
テープカット定規　100×400mm(厚さ3mm)

57-500
クロバー
ローラー
カッター
45mm

カッティング作業には、サイズに合った
マットをお使いください。

57-481
カッティング
マット

230×280mm
(厚さ1.5mm)

57-643
カッティングマット
(45×32)

450×330mm
(厚さ1.2mm)

57-640
カッティングマット
(特大60)

600×450mm(厚さ1.5mm)

## ● 織り地の確認に

57-745
段数リング(Q)

長さや段数の目印に。織り地に引っ掛けて使います。
そのまま巻き取れるコンパクトなタイプ。

## ● スクエア型の小さな織り機もあります

57-968
クロバーミニ織り

手軽に使える小型の織り機。
作品の大きさや気分に合わせて
お好みの"手織り"を楽しめます。

織りサイズ(幅×長さ):
約 13×13 cm

20羽相当の
たて糸の密度で
織り地が
つくれます!

かわいいコースターも
短時間で

織り地を
つなぐと
マフラーに!

## ➡「咲きおり」で、いろいろな作品づくりをしてみましょう!

クロバーのホームページでも、
レシピを多数公開しています。

**https://clover.co.jp**

ストール
(40羽ソウコウ使用)

バッグ
(20羽ソウコウ使用)

ベレー帽
(30羽ソウコウ使用)

# 使い方説明DVD

・本DVDは、「咲きおり」40cm・60cm共通です。
・全編を再生した場合、40cm：約33分・60cm：約35分 になります。

**DVDプレーヤーにセットして、メニュー画面が表示されたら、「咲きおり」40cmから希望の項目を選択して再生してください。**

選択中の項目の下には、赤いライン が表示されます。

- 「全編を再生」を選択すると、
  「たて糸の張り方」・「基本の織り方」・「仕上げ方」の全映像を通して再生します。
- 「部分を再生」を選択すると、
  「たて糸の張り方」・「基本の織り方」・「仕上げ方」の3つの中から見たい項目のみを選択して再生することができます。

説明書に貼り付けたまま、紙ケースのフタを引き上げて、DVDを取り出してください。

### DVDに関する注意事項

・DVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。DVDビデオ対応のプレーヤーで再生してください。パソコンなど一部の機種では再生できない場合があります。
・DVDの保存方法はプレーヤーによって異なります。詳しい保存方法は要因とされるプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
・長もち保存で、なるべく直射日光の当たらない所でご保管ください。長時間放置すると変質し、直射に保管をとってください。
・本DVDを無断で複製し販売することを禁じます。

【取扱上の注意】
・ディスクは清潔にも、指紋、汚れ、傷などをつけないようにご扱ってください。また、ディスクに対してキズ・指紋がつかないと指を当ばりながら、プレーヤーの中の取り出し等をさとて場合もあります。ご注意ください。
・ディスクが汚れた時は、メガネ拭きのような柔らかい布で、内周から外周に向かって放射的に軽く拭き取ってください。レコード用クリーナーや溶剤などは使用しないでください。
・ディスクは清潔にも、鉛筆、ボールペン、油性ペンなどで文字・絵を書いたり、シールなどを貼り付けないでください。
・ひび割れや変形、または接着剤などで補修されたディスクは、他機でさえも絶対に使用しないでください。
・使用後は、必ずプレーヤーから取り出してあるケースに収め、直射日光のあたる場所や高温多湿の場所は避けて保管してください。

DVD VIDEO　NTSC

## 材質

- 組み立て
  - フレーム：天然木
  - ノブ：ABS樹脂
  - ボア：ポリアセタール
  - フロントストッパー：ポリアセタール
  - バックストッパー：ポリアセタール
  - フロントローラー：天然木
  - バックローラー：天然木
  - ワークボード：天然木
  - レール：ポリアセタール
  - ゴム脚：合成ゴム
- バックパース：ステンレス鋼
- 30度ソコカク
  - 脚：ABS樹脂
  - ハンドル：ABS樹脂
  - 金属部：鉄
- シャトル：天然木
- ワークスティック：天然木
- ホルダー：ポリアセタール
- アンションバー：鉄（ニッケルメッキ）
- クリップ：ABS樹脂
- 面アッスター：アイロン
- 呼子が専用レンチ：鋼

▼商品に不備などがございましたら、クロバー(株)
「お客様係」までお問合せください。

**クロバー株式会社**

〒290-0011 市原市潤井戸2番地
「お客様係」TEL. 050-3000-0777

© 2017 CLOVER

お客様中使い方説明書・使い方説明DVDを無断で複製し配布することを禁じます。